重点課題① 胎児期からの健康な生活習慣の支援

目標：生涯に渡り、自ら健康管理ができる力が育まれる

めざす姿

●親子で健康的な生活習慣を身につけ、子どもが心身ともに健やかに成長できる

市民の取り組み

●妊娠中から規則正しい食生活、生活リズムを身につけ、適度な運動を心がける
●子どもの発達に応じた、適切な生活習慣について親が理解する
●個々の生活スタイルに応じて、子どもが適切な生活習慣を身につけられるよう、親が工夫して取り組むことができる
●子ども自身が健康的な生活習慣を理解し、自ら行動できる

中間評価結果と今後の取り組み

○虫歯のない3歳児の割合が悪化（85.8%→77.9%）していることから、早い時期からかかりつけ歯科医を持つことの大切さについて、さらに周知する。
○就寝時間が22時以降の3歳児・5歳児の割合に変化がみられなかったため、睡眠時間が児の発育にどう影響するか、わかりやすく啓発する。
○児童・生徒における痩身・肥満傾向児には変化がみられなかったため、引き続き学校保健と連携して取り組む。
○市が開催する育児学級（すくすく学級）の参加率が低下しているため、よりニーズにあった内容へ変更するほか、PR方法等を工夫する。

市民を支える取り組み

●子どもの発達に応じた適切な生活習慣について、学べる場を提供する
●子どもが適切な生活習慣を身につける重要性について、社会全体の意識が高まるよう普及啓発する
●保育所（園）や学校等と連携し、子どもたちが健康的な生活習慣を身につけられるような支援をする
●食生活改善推進員と協力し、子ども達や子育て世代へ「塩山式手ばかり」等の普及啓発を行う

重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

目標：親や子供の多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支える

めざす姿

●「育てにくさ」を感じる親が、子どもの多様な特性を理解し、安心して子育てをすることができる

市民の取り組み

●育てにくさを感じた時に、いつでも相談することができる
●親が子どもの発達特性を理解する
●子どもたち個々の特性が尊重され、安心して過ごせる居場所がある
●地域の人が育てにくさを感じている親や育てにくさを持つ児について理解し、適した関わりをすることができる

中間評価結果と今後の取り組み

○育てにくさを感じたときに対処できる親の割合は、3･4か月児では悪化し（100%→90.9%）、1歳6か月児、3歳児は改善（66.7%→91.7%、76.9%→84.6%）したため、必要に応じて専門家の助言を受けながら、子どもの多様性を尊重した子育てができるよう引き続き支援する。
○育児に自信を持つ母親の割合は、3･4か月児で大幅に改善（26.7%→75.4%）したが、子どもが大きくなるにつれて自信を失ってしまう傾向があるため（1歳6か月児6.4%、3歳児48.7%）、子どもの年齢に応じた関わり方などを周知したり相談に応じる。

市民を支える取り組み

●母親の気持ちに寄り添える乳幼児健康診査の実施
●育てにくさを感じた時に専門家に相談できる場の提供
●育てにくさを感じる親子へ継続的な支援を行う
●関係機関と連携し、育てにくさを感じる親と子の支援を行う
●地域の人が、「育てにくさ」をもつ児について理解できるよう支援を行う

重点課題③ 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み

目標：親子の愛着を育むことで、子供の虐待を予防する

めざす姿

●親が子どもをかわいいと感じることができ、子どもが安心してのびのび育つことができる

市民の取り組み

●子育てや家族間の悩み・トラブルに対して、適切な相談機関に相談できる
●地域の子どもや子育て中の親に関心を持ち、孤立させないために優しく声かけできる
●虐待が疑われる事例を発見した場合には、適切な相談機関に相談することができる
●乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）について理解できる

中間評価結果と今後の取り組み

○感情的に子どもを怒ったことがある親の割合は、1歳6か月児では改善傾向（11.2%→5.8%）だが、3歳児（19.5%→17.1%）、5歳児（23.3%→19.5%）では変化がなく、また、ストレスを感じている親も増加傾向にあることから、保護者が抱える悩みに気づき、早い段階で適切な支援につながるよう取り組む。
○2か月児全戸訪問の実施率が95.7%→94.0%であるため、さらなる向上を目指す。

市民を支える取り組み

●全ての妊産婦、乳幼児を把握し、対象者を継続的に支援する
●親子の愛着形成を育む母乳育児の推進
●医療機関を含む母子保健・子育て支援関係者との連携強化

甲州市役所　健康増進課　〒404−8501 山梨県甲州市塩山上於曽1085−1　TEL：0553−33−7812　http://www.city.koshu.yamanashi.jp

甲州市母子保健計画（中間評価概要版）

すこやか親子こうしゅう

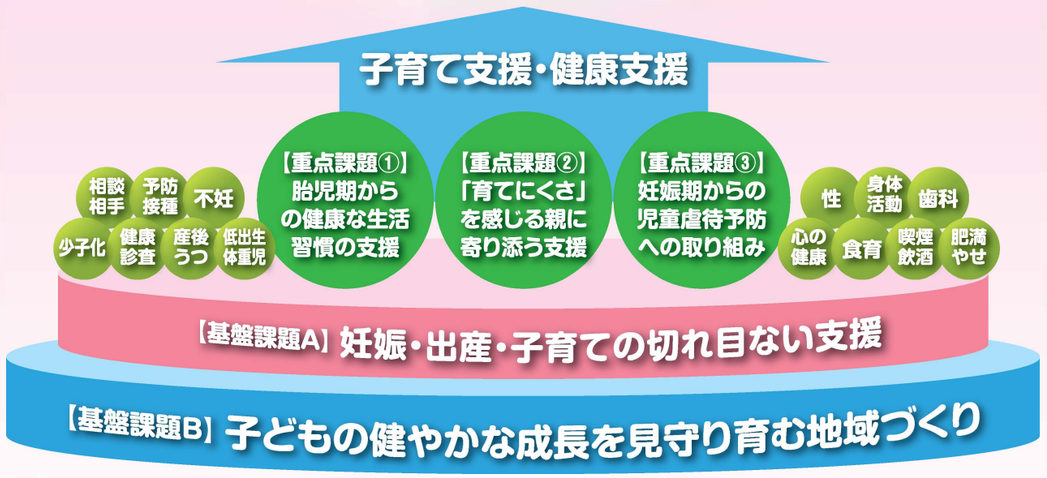
中間評価の結果が出ました！

中間評価の達成状況

84項目のうち、改善が見られたのは約3割でした。

改善した（目標を達成した）	9.5%（8 項目）
改善した（目標に達していないが改善した）	17.9%（15項目）
変わらない	31.0%（26項目）
悪くなっている	17.9%（15項目）
評価できない※策定後追加調査項目含む	23.8%（20項目）

すべての親と子が健やかで心豊かに暮らせるまち　こうしゅう



母子保健計画とは？

母子保健は、すべての子どもが健やかに成長していく上での健康づくりの出発点であり、次世代を担う子ども達を健やかに育てるための基盤となります。「すこやか親子こうしゅう」は、母子の健康水準を向上させるための様々な取り組みを、みんなで推進するための計画です。本計画の期間は、平成27年度から10年間であり、令和6年度が目標年度です。また、平成31(令和元)年度に中間評価を行い、必要に応じて見直しを行うこととなっています。

中　間　評　価　結　果

基本理念　『すべての親と子が健やかで心豊かに暮らせるまち　こうしゅう』

【基盤課題A】妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

目標　妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、安心して子育てができるよう支援する

めざす姿

- 女性のライフステージの転換期である産前・産後の時期を安心して過ごすことができ、次の子も産みたいと思える
- 親が子どもを可愛いと感じることができ、周囲の温かいサポートを受けながら、安心して子育てができる

市民の取り組み

- 妊婦、産婦が、自分自身の心身の健康について考えることができ、必要な健康行動がとれる
- 子どもを可愛いと思うことができ、安心して子育てができる
- 子育てに悩む時に、自ら相談することができる
- 夫婦で協力して子育てができる
- 家族や身近な人が子育てに協力することができる

市民を支える取り組み

- 妊娠届出時から出産、子育てに至るまで継続した支援を行う
- 関係機関と連携し、両親に必要な情報を提供する
- 産前・産後に母親が休養できる場所を提供する
- 子育てについて学び、相談できる場を提供する
- 乳幼児健康診査等を通じ、母親が自信をもって子育てできるよう支援する
- 子どもの時から、命の大切さを学ぶことができるよう支援する
- 母子保健、子育て支援の関係機関等が、相互に情報交換したり、課題を共有し解決に向けて検討する場を持つ
- 授乳しやすい環境づくり
- 転入児の全数把握

中間評価結果

※a:改善した(目標を達成した)　b:改善した(目標に達していないが改善した)　c:変わらない　d:悪くなっている　e:評価できない

- ○妊娠・出産について満足している者の割合　100%⇒94.5% (d)
- ○ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合(3･4 か月児)　86.7%⇒99.3% (b)
  現状値：1 歳 6 か月児 75.2%　3 歳児 68.8%
- ○うつ傾向の産婦の割合（1 か月後の産婦健診)⇒ 6.3%　※新たに設定（全国直近値 9.8%）
- ○妊娠中、健康管理に積極的に取り組んだ母親の割合　70.0%⇒62.8%（c）
- ○子育てについて気軽に相談できる人がいる親の割合(3･4 か月児)　100%⇒96.9% (d)
  現状値：1 歳 6 か月児 96.9%　3 歳児 97.1%
- ○出産 1 か月時の母乳育児の割合(3･4 か月児)　66.7%⇒58.3% (d)
- ○育児に主体的に関わっている父親の割合
  3･4 か月児 60.3%⇒66.2% (b)　1 歳 6 か月児 56.6%⇒63.0%（c）　3 歳児 51.2%⇒64.0% (b)
- ○マタニティクラスの初産婦の参加率　50%⇒26.8% (d)
- ○乳幼児健康診査未受診率　2.4%⇒3.0%（c）　未受診児フォロー率　96.7%⇒100% (a)
- ○妊婦訪問率　93.7%⇒74.1%　(d)
- ○新生児・産婦訪問率　91.7%⇒88.1%（c）
- ○産前・産後ママのほっとスペース利用者数　年間 396人(推定)⇒年間 715 人 (a)

今後の取り組み

- ★市のマタニティクラス参加率や妊婦訪問率が著しく低下し、妊娠中に積極的に健康管理に取り組む母親も減少していることから、妊娠期における健康支援を強化する
- ★子育て相談窓口や母子保健等のサービスに関し、さらなる周知を図る
- ★産婦健康診査を継続実施し、産科医療機関とも連携して「産後うつ」の早期支援を行う

【基盤課題B】子どもの健やかな成長を見守り育む地域作り

目標　妊産婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない地域作り

めざす姿

- 地域の人が妊産婦や子どもに声をかけ、相互にふれあいながら子育てを楽しむことができる
- 甲州市で子育てしたいと親が思える

市民の取り組み

- 市民が妊産婦へ配慮することができる
- 母親が地域の交流の場に参加できる
- 母親が就労しながら出産でき、仕事と子育ての両立ができる
- 子育て中の親や子に、地域の人が積極的に声かけする

市民を支える取り組み

- 民生委員・主任児童委員等と連携を図り、地域での見守りを推進する
- 親同士の交流を目的とした育児支援の充実
- 親同士の交流の場の提供と、親と親をつなぐ支援の充実
- ママのあんしんネットワーク会議の開催
- 育児を支援するボランティア等の育成支援
- 子育てについての理解が深まるよう、普及啓発を行う
- マタニティマークの普及啓発

中間評価結果

※a:改善した(目標を達成した)　b:改善した(目標に達していないが改善した)　c:変わらない　d:悪くなっている　e:評価できない

- ○甲州市で子育てをしたいと思う親の割合　94.2%⇒95.0% (c)
- ○妊娠中、仕事を続けられることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合(3･4 か月児)　100%⇒89.7% (d)
- ○次の子を産みたいと思う母親の割合(3･4 月児)　63.4%⇒52.7% (d)
- ○子どもを連れて外出した時に声をかけてくれる地域の人がいる割合(3･4 か月児)　93.3%⇒91.7% (c)
  現状値：1 歳 6 か月児 93.3%　3 歳児 83.7%
- ○つどいの広場に参加する母親の割合　28.7%⇒44.4% (b)
- ○つどいの広場後の自主グループ化率　100%⇒100% (a)

今後の取り組み

- ★ママのあんしんネットワーク会議を通じて、子育て当事者や母子保健、子育て支援関係者による情報交換や課題検討を行うほか、取り組みについて広く市民周知を図る
- ★地域に子育て世帯の交流の場が広がるよう、民生児童委員、主任児童委員等と連携して取り組む
- ★市が実施する「つどいの広場」等を通じて、子育て当事者の交流を促す
- ★就労妊婦が利用できる各種制度について周知する